

2014年2月3日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 早瀬 隆司

アゼルバイジャン国ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時:2014年1月20日(月)14:01～15:59
- ・場所:JICA 本部(会議室:1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員:佐藤委員、田中委員、長谷川委員、早瀬委員、原嶋委員
- ・議題:アゼルバイジャン国ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業協力準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料:アゼルバイジャン国ヤシマ・ガス火力複合発電所建設事業協力準備調査スコーピング案事前配布資料
- ・適用ガイドライン:国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第44回委員会)

- ・日時:2014年2月3日(月)14:30～15:41
- ・場所:JICA 本部(会議室:113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体

1. 2020年の電力需要予測において、需要サイドにおける効率改善の効果をどの程度見込んでいるのか確認すること。
2. 近隣国との電力供給に関する連携の状況を把握するとともに、今後の隣国の電力ニーズについてもドラフトファイナル報告書に記載すること。
3. 本事業はカスピ海沿岸で実施されるが、国際湖沼であるカスピ海においては、沿岸(流域)の開発や水利用について国際(政府間)協定は存在しないのか確認すること。また、沿岸(流域)の開発や水利用についてコンセンサスを得るために、周辺国(沿岸流域国)に対してどのような手続をとるのか確認すること。

代替案の検討

4. プロジェクトの代替地の検討の状況が十分に記述されていないが、JICA ガイドラインへの適合性は問題はないのか確認すること。
5. 燃料についての代替案の検討において、「既にガスパイプラインが設置されている」ことを主な理由として、天然ガスを選択している。一方で、代替地の検討でも「近傍には既設のガスパイプラインが整備されている」ことが主な理由として挙げられており、全体として天然ガスを前提とした印象が強い。代替案の検討に際して、天然ガスと他の燃料との比較を行い、天然ガスの優位性を具体的にドラフトファイナル報告書に記述すること。また、再生可能エネルギーによる発電が困難である理由をドラフトファイナル報告書に記載すること。
6. 変電所位置、送電線ルート、アクセス道路ルート及びガスパイプライン・ルートの代替案に関する検討の経緯についてドラフトファイナル報告書に記載すること。
7. 発電方式に関し、タービン回転に使用する蒸気および冷却水の供給方式について明らかにし、ドラフトファイナル報告書に記載すること。

スコーピングマトリックス

8. 「土壌汚染」の項で、燃料種を天然ガスとした場合に「燃料油漏えいによる土壌汚染」の可能性の背景について、ドラフトファイナル報告書に記載すること。
9. 「海象」の項で、冷却水の取水および放水に伴い生じる流況(水温を含む)の変化について明らかにし、ドラフトファイナル報告書に記載すること。
10. 気候変動への影響は「相対的に大きくない」という文言に改めること。

環境配慮

11. 現状において、近隣の工業地帯であるスムガイトの大気質の状況は基準値を超えている。さらに、本事業の発電所の稼働により汚染物質の排出量は増加することが予測されている。大気質は、本事業によって最も懸念される環境影響であり、状況によっては具体的な対策を盛り込むこと。
12. 周辺(カスピ海周辺の湖岸)における渡り鳥などの移動性動物の存在の有無を確認すること。

13. 発電所が設置される近隣の水域状況(海底地形、水生生物、流況等)についてドラフトファイナル報告書に記載すること。
14. 騒音・景観対策、生態系対策及び温暖化対策(緩和策)として、敷地内の植栽・緑化対策について積極的に検討し、ドラフトファイナル報告書に盛り込むこと。

社会配慮

15. 発電所が設置される近隣の水域状況(漁業の操業状況や船舶の航行状況等)についてドラフトファイナル報告書に記載すること。

その他

16. 本調査で実施予定の「プロジェクト評価に係わる検討」においては、外部経済効果である環境的便益や外部不経済効果である環境的費用を経済評価に加えることも、可能な限り検討課題とすること。

以上